



ACW2の運営についての現状と課題

2021年2月27日 第15回定期大会@オンライン

2021年1月の会員アンケートから

- 新規会員の安心感、拠り所となっている
- 「もっと参加したい」という声もあるが、
「余裕がなく参加できず心苦しい」という声がとても多い
- 「ほかにない貴重な活動」「働く女性当事者の団体」
「ゆるさがよい」と多くの方が答えている
- 「生活の助け合い」に期待する人が一定数いるいっぽうで、
「寄付したい」「正社員の自分がかかわりづらい」という人もいる (会員間の格差)

会員と団体の貧困化=運営の危機

- **雇用崩壊と会員の減少**

会員は2010年 600名 → 2021年 約400名（うちサポート会員64）
年金世代、現役でも無職や非正規雇用の人が増えた

「当事者の団体」の苦しさ ↓

- **貧困化=お金がない、時間がない、体力がきびしい**

これは運営の貧困に直結。無償労働する余力がない現役世代
活動経験の長さによるギャップも大きい

- **運営を担う・担える人が圧倒的に不足**

解決できるのか?? または何か良い知恵は?

今困っていること

- 会計など必須のしごとそのままならないほど、人手がない
- ホットラインは助成金得てなんとか継続中だが、まとめたり知らせる活動(アドボカシー)が追いつかない。宝のもちぐされ・・・
- 小グループは活性化しているが、それが運営の強化につながらない
- 100年ビジョンは素敵。中期・短期ビジョンを共有できているか
- 入会と退会者数は 1:2 だが
確実に必要として入ってくる人がいるのは希望・・・